

日本の海岸線を歩く会 報告書

2023 年 08 月 08 日

報告者：友松知宏

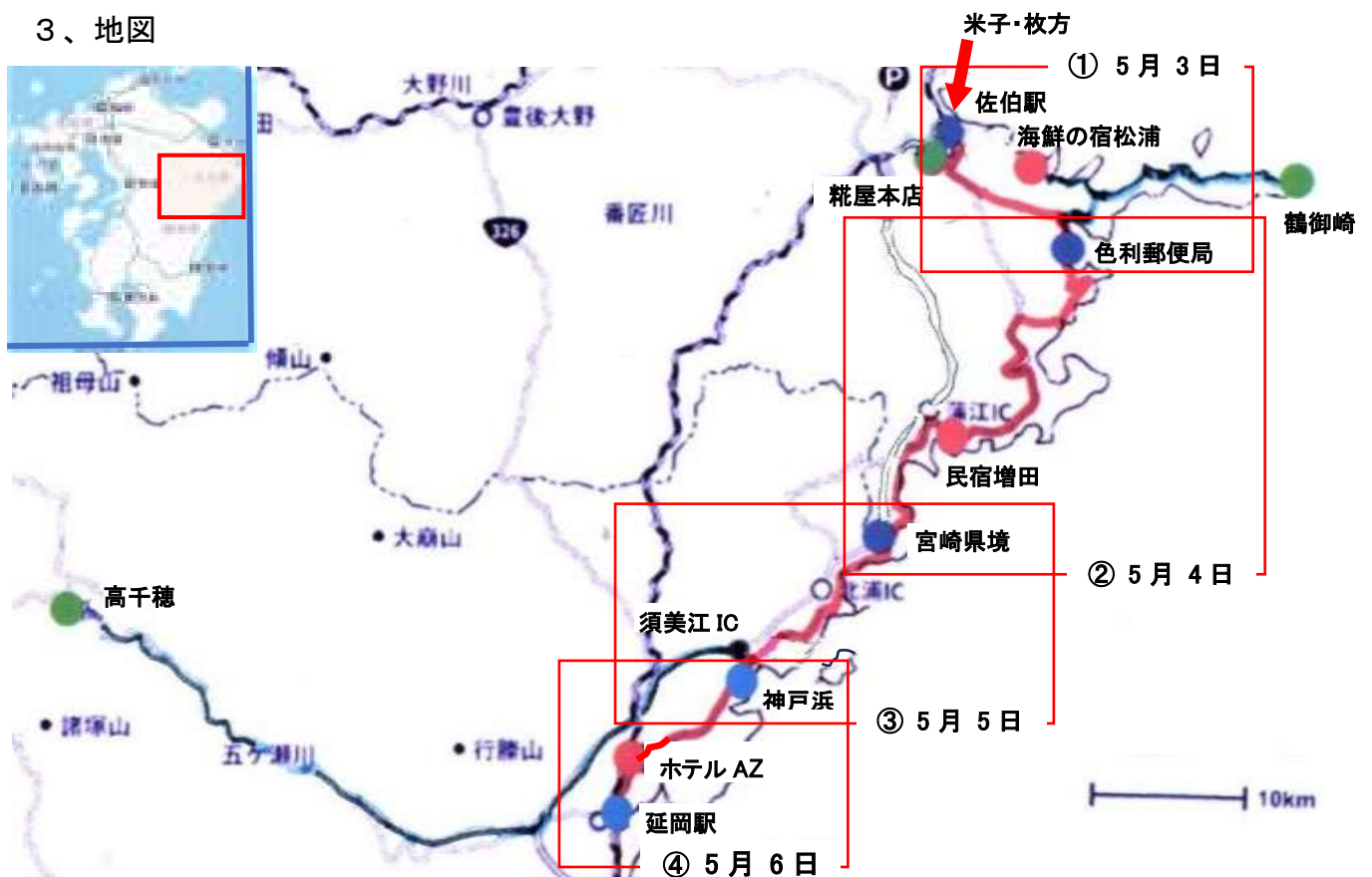
1、概 要

ブロック名	九州 4 (佐伯～延岡)	備 考
歩行区間	大分県佐伯市／JR 佐伯駅 ～ 宮崎県延岡市／JR 延岡駅	
実施期間	令和 5 年 5 月 03 日 (水) ～ 5 月 06 日 (土)	
概算歩行距離	99 . 6 Km	
1 人当費用概算	106 千円	

2、メンバー

1	リーダー・記録	友松知宏 (83 才)	8 期	090-7774-8559
2	会計	友松和子 (83 才)	知宏妻	
3	付き添い	植田洋子 (50 才)	長 女	大阪交野市星田

3、地図



4, 歩行

歩行方法

レンタカーをバトンにして3人(①・②・③)が順番に歩き、二人が次の中継点まで車で移動し、そこから一人が歩き、一人が後から来る一人を待って、二人で次の中継点へ移動する。

以下、この繰り返しであるが、標高差200mを超えるような難所では、体力に応じて順番を適当に変える。

(①・②) == 中継点 A (①待機) ②~~

③~~~~ (①・③) ===== 中継点 B (③待機) ①~~

(②・③) ===== 中継点 C (②待機) ②

(①・③) ===

註) ~~~ : 歩行、
== : 車両

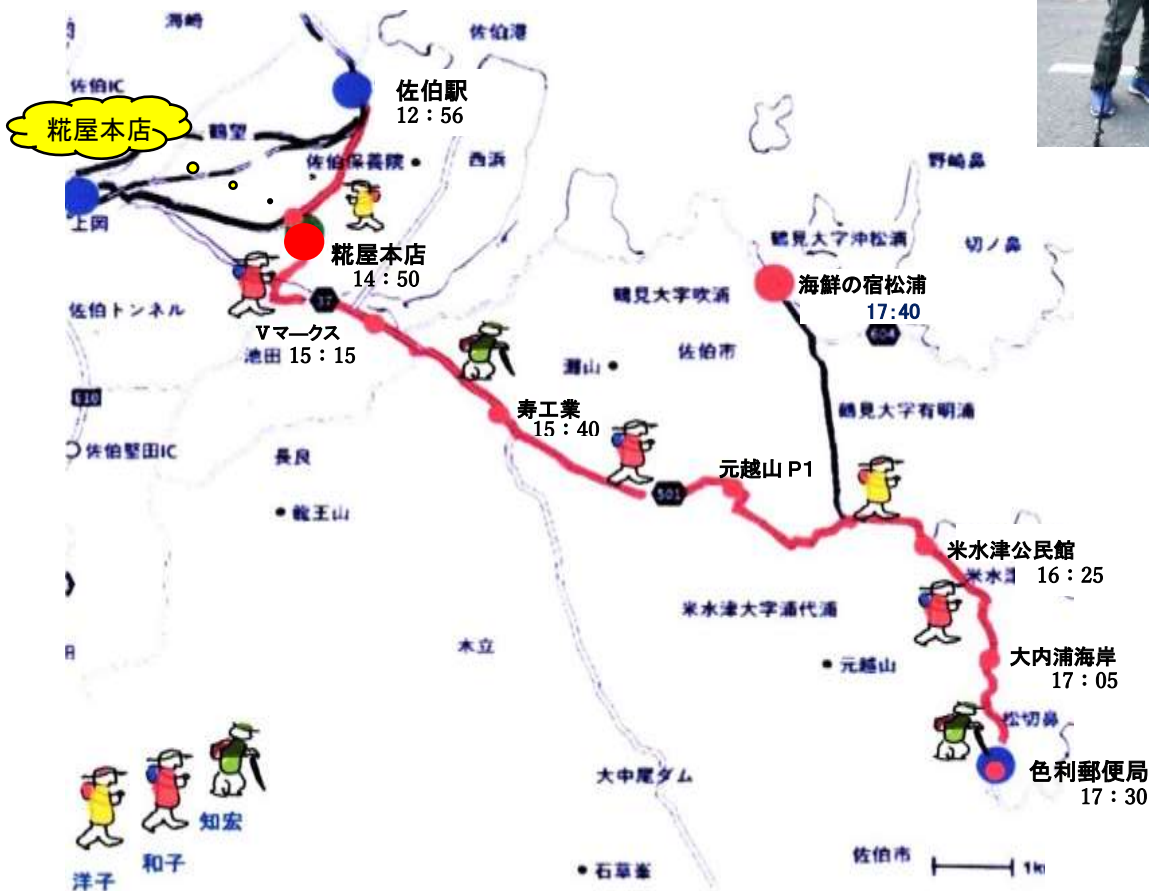
1日目/5月3日(水)、曇り

知宏・和子 米子駅 05:32 === (やくも2) === 岡山

洋子 枚方駅 06:11 = 新大阪 07:11 (のぞみ271) = 岡山 (合流)
= 07:56 = (のぞみ271) == 09:23 小倉 09:44 = (ソニック9)
= 11:03 大分 11:34 = 12:56 佐伯駅 ~ 歩行開始



佐伯駅



糰屋本店訪問は当初計画にはなかったが、出発の3日前になって和子が塩麴を作りたいと言いだして、インターネットで塩麴のレシピを検索して、糰屋本店と妙峰さんにヒット。それを読んで是が非でもお会いしたくなり、手紙を書き、出発が迫っていたので間に合うかどうかはおいて、米子駅前の本局

に走った。

新幹線のなかでスマホを見て、今日はお店が休みとわかり、寄り道せず、計画どおり歩こうかという意見もあったが、距離は変わらないし、待っていて下さるかも知れないという期待もあって、お店のある船頭町を経由することにした。

半分は諦めていたので、お会いできたのは本当に嬉しかった。長居して迷惑をおかけしてはいけないと思い、十分程度で失礼するつもりであったが話しが弾み、お店を辞したのは14:50であった。



妙峰さんの書斎で 歴史のある糰屋本店

(巻末に妙峰さんの紹介)

糰屋本店 14:50～＝V マークス～＝寿工業(株)～＝米水津公民～＝17:30 色利簡易郵便局＝＝米水津公民館＝＝鶴御崎トンネル＝＝17:40 海鮮の宿まつうら (宿泊)・・・17.1Km

予定を2時間遅れで本日の目的地、色利簡易郵便局に到着。この後、鶴御崎へ行って、戦争中の砲台跡等を見学する予定であったが中止し、本日の宿／海鮮の宿松浦へ直行。

松浦は今までで最も高い宿賃2万5千円であったが、大型連休の中日、ここがだめなら車中泊やむなしと覚悟をしていたので有難く予約させて頂いた。

メインは大鯛の生き造り(皿の上で動いた)と牛肉のシャブシャブであるが、その後も次から次と皿が出てきて、食べきれない。ご飯にはまったく手を付けず仕舞いであった。幼少から、ご飯は一粒も残してはいけないと厳しく躾けられていたので、かなり抵抗を感じた。



まつうらの前に広がる海



海鮮の宿まつうら



鯛の生き造り

2日目／5月4日(水)、曇り

昨夜の豪食が祟って夜中に目が覚めた。昨日カットした鶴御崎のことが悔やまれて、朝食前に行こうと思いたった。朝風呂に行った二人を待って話をすると、洋子が一緒に行くという。さっそく車を走らせ、鶴御崎に向かう。

鶴御崎は九州最東端の地で、海拔200mの絶壁に鶴御崎灯台がある。

戦時中は要塞としての役目を果たすため砲台や壕が作られ、その遺跡が残っている。遺跡には弾痕が残っており、艦載機来襲の見張り所としてかなり厳しい場所であったことが偲ばれる。



まつうら 5:40 出発 == 6:15 鶴御崎駐車場 ~~ 6:22 鶴御崎灯台 ~~ (行歩道) ~~ 7:00 駐車場
 == 米水津 == 東中越浦局 == 鶴御崎自然公園 / 見学



弾痕が残るトーチカ跡／鶴御崎



九州最東端／鶴御崎灯台

いま一つ、鳥羽一郎の「男の港」の発祥地でもある。地元観光協会の依頼で作られた歌は、いまでもNHK のど自慢に歌われている。

最東端の標識は、灯台から 150m ほど下にあり、道を下りかけたが、かなりの急坂で、めまい病をもつ私には急すぎて、下るのは断念した。45 分ほど遊歩道を歩いて帰途につく。

まつうらで朝食後、今日の空の展望所へ向かい、和子が昨日の出発地色利郵便局へ歩き、知宏は次の中継点入津へ向かう。

まつうら 08:00 == 鶴御崎トンネル == 米水津 == 空の展望所 09:00 == 09:40 色利局 (和子)

空の展望所 09:00 (知宏) == 入津 == 畑野浦 12:00 == 山田水産 == 野浦川内 12:00 == 13:00 道の駅蒲江 (集合 / 昼食) 13:20 == 民宿増田前 == 丸市尾郵便局 == 蒲江波当津 IC

知宏／宮崎県境 16：20＝～蒲江波当津 IC （合流） 16：50＝17：20 民宿増田／宿泊・・・41.5Km



畑野浦の坂道を下る和子



釣バカ日誌ロケ地の標識

この日は特別の観光はなく、ひたすら歩いた。道の駅蒲江で揃って昼食を摂るため、蒲江生コンから道の駅の区間は距離を短くして、道の駅で歩行と車がほぼ同時に到着した。また、出発点の空の展望所と終点の宮崎県境は共に 200m の標高があり、進行方向とは逆に（下り方向に）歩いた。

空の展望所から入津の間は 200m 前後の標高を緩やかにアップダウンし、天候もよかったので、展望が楽しめた。この一帯は映画釣りバカ日誌の撮影が行われた場所で、早朝から空き地には釣人の車が駐っていた。

下り松鼻から山田水産への途中、干潟で潮干狩をする人たちを見たが、干潟に「このあたりのアサリには毒がある」との注意書きがたっていた。その夜泊った民宿増田の食事に大アサリの煮つけが出てきたが、黙って食べた。特に腹痛なども起こらなかった。

12:30 道の駅かまえ（昼食）。

ここの海鮮レストラン海鳴亭を当てにして、先着の和子、洋子が席を確保する筈だったが、時間が遅く、締め切り。

売店で弁当を買って昼をすます。



海鮮レストラン海鳴亭



道の駅かまえ

16:20 知宏、宮崎県境を波当津 IC に向かって歩き出す。かなり急坂で、足任せに駆け下る。16:50 波当津 IC に全員集合。17:20 民宿増田チェックイン。



県境のお地蔵さん



波当津 IC 入口



波当津 IC への下り道

3日目／5月5日（木）、曇り

8:00 民宿増田を出発。昨日の終点の宮崎県境に車で移動。宿の前の海が静かでとても美しい。昨夜給仕をしてくれたお兄さんが、動作も言葉も穏やかだったのは、この景色と無関係ではないと思った。



右端が増田の若主人

民宿増田 8:00 == 車 == 8:30 宮崎県境 = ~ 9:06 直海神社 = ~ 八郎トンネル = ~ 東谷トンネル = ~ 道の駅北浦 = ~ 南浦バス停 = ~ 10:50 須美江トンネル = ~ ビーチの森案内所 = ~ 11:45 浦城 = ~ 12:15 白浜 = ~ 12:55 安井峠 = ~ 火打崎 = ~ 13:52 神戸浜海岸

14.1Km

午後の高千穂町観光の時間を確保するため、土地のアップダウンによって歩行スパンを変え、車での待ち時間（アイドルタイム）を切り詰めてリレー歩行をした。道の駅などもあったが、民宿でにぎり飯を作ってもらい、車での待ち時間にそれぞれに食べ、時間を節約。最後の火打崎～神戸浜（3.6Km）はそれほどのアップダウンでもなかったが、予定より遅れていたのので中間地点で洋子に交代してもらった。



宮崎県境



血振り地区直海漁港



直海神社



道の駅きたうら



ビーチの森



浦城 ヨットハーバー



神戸浜海岸から須美江 IC に戻り、九州自動車道（国道 10 号）から国道 218 に乗り換え、高千穂まで、60Km を車を走らせる。

観光案内所で観光マップなどをもらい、天岩戸神社、高千穂神社を参拝。夕暮れの高千穂峡を覗き、コンビニ弁当で軽く食事をすませ、20 時からの高千穂神社で夜神楽を鑑賞。



天岩戸神社

岩戸神社素戔鳴命の狼藉がひどいので天照大神が怒って岩戸に隠れてしまい、世の中が真っ暗になり、悪が蔓延った。それを憂えた八百万に神々が集まって相談し、一計を案じて天照大神を岩戸から引っ張り出したという伝説の神社である。岩戸川を隔てた対岸にある岩戸を、西本宮から遙拝できる。残念ながら写真は NG。八百万の神々が集会した天安河原がある。



天岩戸神社



天安河原

高千穂峡

阿蘇山が爆発した時の火砕流でできた台地が浸食されてできた峡谷。断崖が 7km 続いているが、日暮れになって、遊歩道は閉鎖。入口の天の真名井を覗いた。

この一帯は天尊降臨伝説の地で、言わば、日本の故郷である。天尊降臨の神話は 100km 離れた霧峰にもあり、諸説入り乱れ、どちらが本家か決着ついていない。



天の真名井

高千穂神社夜神楽

高千穂神社の能楽堂で毎夜、神楽が舞われる。鉦女が天照が閉じこもった岩戸の前で踊り（鉦女の舞）、神たちが大騒動。何が起こったかと天照が岩戸をそっと開いて外を覗いたところを、隠れていた手力雄が岩戸をこじ開け、天照を引き出す（取戸の舞）と御神体の舞が舞われた。



手力雄の舞



取戸の舞



鉦女の舞

御神体の舞 イザナギとイザナミで、二人の子（国）造りを表し、子造りの舞とも言われる。



仲のよい若夫婦が収穫したコメでお酒を造りました。



あ～た一口どうぞ❤️



客席に下りてきて
「あ～たいい男」



イザナミさん酔ってしまいました* @ x ?



お前も ♥ ・、あ〜たも ♥ ・〜

イザナギが焼きもち焼いて
大騒動になりましたが



最後は仲直り、子造りに励みました。めでたし❤️めでたし❤️

(写真一部を観光協会 HP から引用)

3日目／5月6日（金）、くもり～雨



8:00 ホテル AZ == 8:30 神戸浜海岸 ~ = 9:45
 常夜灯（延岡港外れ） ~ = 10:45 ローソン川島店
 10:45 ビート・スイミング（水泳プール） ~ =
 11:45 延岡駅

26.9Km

昼食時であるが、洋子が蕎麦を食べたいと言うのでスマホで捜し、平田町の吉庵へ行くことにした。

小体なという表現がぴったりの小料理屋。

蕎麦も、九州の山中では珍しい本格的な手打ち。

壁の貼り紙に、店の裏の川で捕ったアユの塩焼きが3匹で1800円とあるので、一皿を注文した。

出てきた皿をみてビックリ。3匹のうち2匹は何処でも見られる15センチほどであるが、1匹は優に25センチを超える大物。東京の料亭だったらうん万円は取られそうである。酒を飲めないのが残念だったが、眼と胃袋の保養になった。



吉庵にて

勘定をすませ店をでると、道を挟んで向こうにきれいな芝と、濃い緑の森が広がっている。行ってみると、延岡植物園の看板がたっている。時間の余裕があったので、入って、園内を1時間ほど、ゆっくり散策してまわった。広く丘陵になっていて、とても気持ち良かった。



延岡駅に戻り、15:43 特急ニチリン12号に乗り、大分、小倉、岡山と乗り継ぎ、23:32 米子に帰った。

5, 会計

交通費	JR (3人分)	128,200-
	レンタカー (ガソリン代込み)	41,529-
	タクシー	3,200
	小計	172,929-
宿泊費		126,540-
食事代 (昼、夕)		15,740-
観光		1,500-
合計		316,709-
	一人あたり	105,570-

浅利妙峰さん紹介

妙峰さんを一言で紹介するならば、「塩麴の伝道師」である。

創業 330 年の老舗、糀屋本店の 9 代目当主で、塩麴は江戸時代の文献をみて妙峰さん自らが開発した。

「こうじ屋ウーマン」を名乗り、3 男 2 女の子供と塩麴を抱えて八面六臂の伝道活動は、失礼な言い方だが、孟母とお呼びするのが相応しい。孟子である塩麴を一人前に育てようと、三遷どころか四遷も五遷もしたに違いない。

妙峰さんの孟母四遷・五遷ぶりを、ブログと頂いた書面から抜粋すると、



① 出版

『糀屋本店の塩麴レシピ』（PHP 研究所）2011 年。『ひとさじで料亭の味！魔法の糀レシピ』（講談社）2011 年。『糀屋本店の塩麴レシピ』（PHP 研究所）2011 年。『糀屋本店の塩麴レシピ』（PHP 研究所）／中国語翻訳版 2015 年等々。

② 講演

立命館アジア太平洋大学 2014 年。ボストン・バブソン大学（米合衆国）2014 年。学習院女子大学 2016 年他。

③ TV 出演

テレビ朝日「モーニングバード」2014 年。NHK「あさイチ」2021 年他。

④ 塩麴普及のための外国訪問

アメリカ、フランス、イタリア、ドイツ、ベルギー等 13 ヶ国、29 都市。
国内の後援会・講習会は 300 回を超える。

6. 感想

「こんな所に暮らしたら気持ちいいだろうなあ」。

海岸線に広がる地形のダイナミズム。対照的に、その内の湾にある港町に流れる緩やかな時間とおだやかな空気。出会う人との楽しい交流。その中に身をおいた父が思わずつぶやいた。80 歳を過ぎてもなお、これからの人生に色どりやロマンスを求め続け、ワクワクしながら行動している父の姿。

大分と宮崎の県境の険しいルートを制覇した父に駆け寄り、その歩みに賞賛の言葉をかける母の姿。

二人の歩く旅に同行を続ける私の興味が、訪れる土地から、この旅にチャレンジし続ける両親の姿へと、移りつつあるのを感じた旅であった。

2023,05,13 植田洋子